

## 船舶インシデント調査報告書

令和3年11月24日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

インシデント種類	運航不能（機関故障）
発生日時	令和3年4月11日 11時00分ごろ
発生場所	鹿児島県枕崎市大崎鼻東南東方沖 前瀬鼻灯台から真方位269° 2.6海里付近 (概位 北緯31° 14.8′ 東経130° 21.7′)
インシデントの概要	プレジャーボート千代丸は、錨泊中、船外機が始動できなくなり、運航不能となった。
インシデント調査の経過	令和3年4月20日、主管調査官（門司事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
<b>事実情報</b> 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	プレジャーボート 千代丸、0.5トン 295-47408鹿児島、個人所有 ガソリン機関、船外機、4サイクル、出力29.4kW、回転数毎分5,000、4気筒、ボア79mm、使用燃料ガソリン ガソリン機関、船外機、4サイクル、出力4.4kW、回転数毎分5,000、2気筒、ボア56mm、使用燃料ガソリン
乗組員等に関する情報	船長、一級小型
負傷者	なし
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 東、風力 1、視界 良好 海象：海上 平穏
インシデントの経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、船外機を停止して錨泊しながら釣りを行った後、船長が帰港する目的で船外機を始動しようとしたところ、セルモータが回らず、船外機が始動しなかった。</p> <p>船長は、予備の船外機を始動しようとしたが、予備の船外機も始動せず、点検したが原因を特定できなかったため、運航不能と判断して118番通報した。</p> <p>本船は、来援した巡視艇にえい航され枕崎市枕崎港に着岸した。</p> <p>本船は、本インシデント後、修理業者による点検が行われ、経年劣化によりスターターリレーに不具合が発生し、セルモータが回らず、始動しなかったことが判明した。また、予備の船外機は、本船を購入して以来使用していなかったため、キャブレターが詰まり、始動しなかったと判断された。</p> <p>本船は、約3年前に船長が中古で購入して以来、月に2回程度出航しており、普段使用している船外機は令和2年に修理業者による点検が実施されていた。また、過去にスターターリレーを交換した記録はなかった。</p>

<p><b>分析</b></p>	<p>本船は、約3年前に船長が中古で購入して以来、スターターリレーの交換がされていない中で、船外機を停止して錨泊中、経年劣化によりスターターリレーに不具合が発生し、セルモータが回転せず、また、予備の船外機は本船を購入して以来使用しておらず、キャブレターが詰まっていたことから、船外機の始動ができず、運航不能となったものと考えられる。</p>
<p><b>原因</b></p>	<p>本インシデントは、本船が、約3年前に船長が中古で購入して以来、スターターリレーの交換がされていない中で、船外機を停止して錨泊中、経年劣化によりスターターリレーに不具合が発生し、セルモータが回転せず、また、予備の船外機は本船を購入して以来使用しておらず、キャブレターが詰まっていたため、船外機の始動ができなくなったことにより発生したものと考えられる。</p>
<p><b>再発防止策</b></p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 船舶所有者は、船外機のスターターリレー等の電装部品について、発航前点検や定期的に点検を行い、異常がある場合または船外機の製造メーカーが推奨する交換時期がある場合は、電装部品を整備または交換すること。</li> <li>・ 船舶所有者は、予備の船外機を定期的に始動させ、発航前点検や運転時間に応じた定期的な点検、整備を行うことが望ましい。</li> </ul>